

## 予測される生活サービスの事例抽出

## - 少子高齢と人口減少社会に対応した生活サービスの再構築に関する研究(その1) -

正会員 ○古川 恵子\*1 正会員 三堂早紀子\*2  
同 金久 絵里\*2 同 友清 貴和\*3

少子化 高齢化 人口減少 生活サービス サービス事例

## 1. はじめに

## 1-1. 研究の背景

戦後我が国では、社会・経済システムなど全ての制度設計が人口増加かつ経済成長を前提として行われてきた。少子高齢化・人口減少社会に突入した現在、人口構成の変化に伴う既存インフラの不適合や行政サービスの縮小・低下といった問題等が生じ、社会システム全体が揺らぎ始めている。一方、これまで地縁や血縁によって支えられてきた地域社会では、住民のライフスタイルや価値観の多様化に伴い、住民間の交流が停滞し、地域コミュニティの希薄化を招いている<sup>(文1)</sup>。今後の社会で、質の高い住民生活を守っていくには、既存の社会システムや行政サービスの総合的な見直しと、これに見合った社会資本の整備が必要である。

## 1-2. 研究の目的

本研究では、従来、個別に論じられることが多かった少子高齢化・人口減少に関する問題を総合的に扱い、表1に示すような今後の社会に必要な要素と考えられる要素を前提に、地域に見合った生活サービスの在り方を探ることを目的とする。

## 1-3. 研究の方法・構成

本稿(その1)では、現在行われているサービス事例を抽出し一般的な視点で生活サービスを捉え、(その2)で前稿の知見をもとに抽出した生活サービスの類型化を行い、それらの分析を行う。(その3)では、類型化された生活サービスを、具体的な地域を想定して地理情報を加味して考察する。具体的には、以下に示す手順で研究を進める。

①現在一部の地域で行われている先進的な生活サービスの事例を収集する(その1)。②収集した事例を基に、

表1. 今後の社会に必要な要素

補完性の原理	個人が自ら実現できることは個人が行い、個人ではできないことを家族や友人が、家族や友人ができないことを地域住民等(住民・町内会・NPO・コミュニティ組織などといった小さな単位)が行う。さらに小さな単位で不可能なことは市町村、都道府県、国といった大きな単位が順に行政として補完していく。
役割分担	様々な地域の課題に対して、行政だけではなく地域の多様な主体と役割分担をしながら解決していくことを目指す。
新たな地域コミュニティ	多様な主体が参加し連携することで、地域内でテーマや課題に応じたコミュニティ活動を展開し、そしてさらにコミュニティ活動同士ネットワークを形成することで新たな地域コミュニティへと導く。
新しい価値観	今まで個人の生活の充足だけを求めていたのに対し、今後は地域や社会全体を目指す中で自らの暮らしの質を向上させていく。人間の価値観や行動様式といったソフトの地域力開発へと移行する。

活サービスの提供形態の類型化、それらの傾向について分析を行う(その2)。③鹿児島市の実際の2地域を例に挙げ、類型化で設定した項目を地域の要素におきかえ分析・考察を行い、類型化した生活サービスを実際の地域で展開する方法を探る(その3)。

## 2. 事例収集の方法

デルファイ法を用いた既往研究<sup>(文2)</sup>により、近未来の社会動向の実現可能性と生活サービスの必要度・普及時期を予測し、今後の社会に必要なとされる生活サービスの抽出・位置付けを行った。その結果、72項目(少子化分野:24項目、高齢化分野:34項目、人口減少分野:14項目)の生活サービスが抽出された。

本稿では、既往研究<sup>(文2)</sup>で得られた知見を基に今後の社会動向に対応した先進的な生活サービスの事例<sup>(文2)</sup>を収集し、それらの内容や特徴を把握する。同時に、生活サービスの特徴付ける要素も探る。

新聞やインターネット等を利用して収集した事例数は、159事例(少子化分野:51、高齢化分野:44、人口減少分野:64)である。それらをまず、大きく5つの視点(事例内容・実施地・サービス提供者・サービス対象者・サービスの広がり)から各事例の特徴を整理する。次に、既往研究の72項目と今回新たに追加した3項目を含む全75項目のサービスに分類する。内容や提供形態の類似から取捨選択すると110事例に整理された。その一部を表2に示す。

## 3. 生活サービス事例の特徴

事例の特徴を分析した結果、5つの視点のうち、サービス提供者・事例内容(サービスの形)・サービスの広がり3つがサービスを特に特徴づける要素として挙げられる。これらは、提供者・対象者の双方に経済的・時間的・身体的側面で大きく影響を与えるためと考える。

## (1) 提供者

事例収集では、「放課後児童クラブサービス(a-8-3)」や「防犯ボランティア(c-11-2)」が多く見られる傾向があった。これらは近年、共働きの増加や、児童を狙った事件が多発していることから、ニーズが生まれ、サービスが発生したと考えられる。また同じ「防犯ボランティア」であっても、見守りサービスでは、老人クラブがボランティアとして小学生の登下校時に見回ることに対して、民間組織のサービスでは緊急時に子機

Extraction and prediction of the Life Service Cases

A study on reconstruction of the life service corresponding to less children, aging and population reduction society

\*1 FURUKAWA Keiko, \*2 MIDO Sakiko

\*2 KANEHISA Eri, \*3 TOMOKIYO Takakazu

表2. サービス事例(一部抜粋)

分類	サービス名称	概要	事例名 (実施地)	事例内容(掲載日時)	提供者	対象者	広がり
少子化	a-8-3	放課後児童クラブサービス	村長の家児童クラブ (日置市牧上町)	高齢者グループホームと併設する放課後児童クラブ。住民のニーズに応じてできた複合施設として、子どもと高齢者が時間を共有。学びあい、生活に潤いをもたらす地域施設の新たな拠点となっている。(南日本新聞2006.08.05)	社会福祉法人・地域の個人(保護者・自治会の人)	幼児児童	町丁学区～小学校区
	a-16-1	子育て講習会サービス	わいわいステーション (兵庫県尼崎市)	核家族化が進み、若い母親が育児に関するアドバイスを受けにくい傾向にあり、住民同士の交流が少ない都心部において、子どもたちとゲーム、絵本を読み聞かせ、母親たちの相談のり、子育てに関する講習会(月1回)を行う。(読売新聞2006.6.17)	栄養士 保健師 元小学校教諭 NPO 民間組織	親	町丁学区～小学校区
	a-24	相互援助活動	鹿児島市ファミリーサポートセンター (鹿児島市)	提供会員の家庭で、保育施設の保育開始前や終了後子どもを預かること。保育施設までの送迎を行うこと。学童保育終了後や学校の放課後、子どもが軽度の病気の場合などに子どもを預かること。(鹿児島市ホームページ)	鹿児島市 登録会員	幼児児童 母親	市町村内
高齢化	b-35-2	介護予防サービス	脳の健康教室 (鹿児島県さつま町)	介護保険の地域支援事業。60～80代28人集う。読み書き、計算で認知症予防。読み書き、計算で認知症の予防をする。教室には、あらかじめ講習を受けたボランティアの民生委員や在宅福祉アドバイザーらが「サポーター」として参加する。(南日本新聞2006.06.13)	ボランティア 民生委員 在宅福祉 アドバイザー	高齢者	町内会～市区町村
	b-28	高齢者ヘルパー	高齢者ヘルパー「サンヘルともいき」 (茨城県美野里町)	超高齢者向けの交流会「サロン・ド・みのり」を月1回開催、その送迎役を務める。3級ヘルパーを取得した元気な高齢者が集まって、ボランティアグループ「サンヘルともいき」を結成。介護保険を利用していない高齢者を対象にしたデイサービスの運営を委託し、手芸や紙細工、朗読などを高齢者同士で楽しむ。(日経新聞2005.07.12)	市町村 ボランティア	高齢者	町内会～小学校区規模
人口減少	c-11-2	防犯ボランティア	まもるっち (東京都品川区)	新しい防犯システムを使って、犯罪から子供たちを守る。登下校時に身につけ、緊急時に子どもが「まもるっち」のピンを引くと、品川区役所のセンターシステムにつながり、そこから保護者や子どもがSOSを発した付近の協力者等の携帯電話や固定電話に連絡が行き、連絡を受けた大人が駆けつけて、子どもの危険を未然に防止しようというもの。(東京都品川区ホームページ)	区 NPO法人 地域住民	児童	市区町村
	c-6-1	交流サロン	サロン苑道 高齢者の集まり (京都府宇治)	高齢者の集まり、仲間をつかって楽しい老後を送ろうとする。自治体などが首脳を取るのではなく、食事作りは当番制で日程も自分たちで決める自主独立型。(南日本新聞2006.04.15)	個人 友人同士	高齢者	高齢者の日常生活圏域

によって助けが発信されれば位置を確認して助けに行くなど、提供者が異なれば、サービス内容や提供範囲に違いが見られた。

また、表3のように約半数に1つの提供者が同時に複数のサービスを行ったり、1つのサービスを提供者間で連携して行なっていることが分かった。例として、高齢者グループホームと児童クラブを併設する「放課後児童クラブサービス(a-8-3)」や、子供の遊び場と子育て講習会を併せ持つ「子育て講習会サービス(a-16-1)」などが挙げられるが、同じ分野内でのサービスの連携が多数を占め、前者のような分野をまたがるサービス事例はほとんど見られなかった。

(2) サービスの形

「介護予防サービス(b-35-2)」のようなマンパワーによる介護を予防するサービスや、「交流サロン(c-6-1)」のように同世代間のふれあいを目的とする交流のサービスであったりと、サービスを介してやりとりされるものも多様である。

(3) 広がり

相互扶助による子育て支援を行なう「ファミリーサポートセンター(a-24)」は、自治体ごとに設置されるが、提供者(事前登録会員)と依頼者の住む地域や内容を考慮して紹介することにより、市内全域をカバーする。また「高齢者ヘルパー(b-29)」では、提供範囲がサービス提供者である高齢者の生活行動範囲によって

表3. サービス間の連携数

分野	事例数	サービス連携数 (異分野連携数)	
		数	%
少子化	35	21(1)	60(2.9)
高齢化	41	25(6)	61.0(14.6)
人口減少	34	10(2)	29.4(5.9)
合計	110	56(9)	50.9(8.2)

限定される。このように、内容や提供者によって、サービスの広がり方や規模に特徴が見られた。

4. まとめ

本稿では、生活サービスの特徴付ける要素として以下に示す3つの視点が挙げられた。(①提供者、②内容(サービスの形)、③広がり)収集した事例は、どれも地域の特例や実験的要素も多く含んでいた。

【注記】

注1) 本研究における生活サービス：行政が担ってきた社会資本の整備や福祉サービスに加えて、ソーシャルキャピタルを活用した地域福祉サービスを含む。

注2) 本研究における生活サービス事例：現在、少子化・高齢化・人口減少対策として新聞などの各種メディアで注目され、取り扱われている既存の生活サービス事例

【参考文献】

- 文1) 古川恵子、友清貴和；農村地域の高齢者福祉を視野に入れた交際関係の分析，農村計画論文集，3，145-150，2001.12
- 文2) 友清貴和ほか；少子高齢と人口減少社会に対応した生活サービスの抽出及び位置づけ(その1・2)，日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1，375-378，2006

\*1 鹿児島女子短期大学教授・博士(学術)  
\*2 鹿児島大学大学院修士課程  
\*3 鹿児島大学教授・工博

Prof., Kagoshima Woman's Junior College, Ph.D.  
Graduate School, Dept. of Architecture, Kagoshima University  
Prof., Dept. of Architecture, Kagoshima University, Dr. Eng.